

「精神科救急」最前線！

方に住むで家族も参加しやすくなったという新たなメリットも生まれました。コロナ禍も、けっして悪いことばかりではないのです。

田之口 ご家族の支えが患者さんの退院後の生活に良い影響を与えることもあるので、「急性期ファミリーグループ」はご家族の疾患理解や支援力を高めるための会でもあります。

大月 そうなんですよ。家族の支援力が高まれば、その分だけ統合失調症の再発率も低くなるんです。そのことは研究データからも明らかになっています。

Q 患者に寄り添う姿勢のあらわれとして、もう一つ、「急性期高齢者パス」というものを開発されたそうですが、これはどういうものですか？

黒木 「パス」というのは「クリニカル・パス」——治療や看護の計画書のことですね。従来、高齢者向けの特別なクリニカル・パスはなかったのですが、それを多職種で検討し、当院オリジナルの内容で形にしました。

大月 その背景には、精神科救急の入院患者が高齢化してきたことがあります。私が当院にきた一二年前と比べると、救急病棟への入院患者の高齢化は明らかです。

黒木 そついう背景があつて、高齢者に合わせたパスを作る必要に迫られたわけです。たとえば、入院して身体を動かす機会が減ると、高齢者は一気にADL（日常生活動作）が低下して、退院後の生活に支障をきたすケースが多いのです。それを防ぐ方策とか、高齢者ならではの対応が盛り込まれています。一年がかりでスタッフ間の話し合いを進めて、「急性期高齢者パス」がようやく完成して、今年の四月から導入しました。

✕ 「おうばく病院らしさ」が、精神科救急においても一貫して発揮されていることがよくわかりました。ありがとうございます。



取材と原稿／前原政之（まえはらまさゆき）
1964年栃木県生まれ。1年のみの編プロ勤務を経て87年23歳でフリーに。ライター歴36年。



医療法人 栄仁会

宇治おうばく病院

精神科救急

..... 精神疾患の救急に特化した病院です。

宇治おうばく病院には、2つの精神科救急病棟と1つの精神科急性期治療病棟があり、24時間、365日で精神科救急患者の受入を幅広く行っております。

精神科救急病棟では、精神疾患が急変して緊急的な治療が必要な患者様の受け入れを行っており、精神保健指定医、看護師、精神保健福祉士などといった多職種が手厚く配置されています。日中、夜間を問わず、入院の受け入れを行うとともに、出来る限り短期間で入院治療を行い、早期に地域への退院を目指しています。新たな長期入院の方を生みださないとともに、長期入院の方にもできるだけ退院いただくことが重要だと考えております。

また、京都府精神科救急医療システムにも積極的に参画しております。「精神科救急治療が必要な時は宇治おうばく病院」と患者様・関係機関に認知していただくべく、精神科救急治療の質を高め、京都府南部の精神科救急の中心的役割を果たせるよう、日々努力を重ねております。

お問い合わせ・ご相談

tel. 0774-32-8111

精神疾患の救急に特化した病院です。緊急の方は、夜間・休日を問わず24時間体制で救急診療を行っています。詳しくは、お電話でご相談ください。